

東海コンファレンス 2025

事務局

事務局長 伊藤 公一

2025年8月23日（土）、愛知県半田市のアイプラザ半田で開催された東海コンファレンス 2025 に参加した。四日市市から伊勢湾岸道を通り、自家用車でおよそ1時間の移動。道中は天候に恵まれ、会場に到着するとすでに多くの参加者が集まっており、全体が活気に包まれていた。

午前中は防災フォーラムに参加。南海トラフ地震を想定した「もしもの場面」をテーマに、タレントの足立梨花氏、廣岡まりあ氏、香川大学の竹之内健介氏、滋賀大学の松原悠氏が登壇した。専門的な知見に加え、身近なエピソードも交えられ、災害への備えを自分の生活に引き寄せて考えるきっかけになった。さらに、会場のQRコードからアクセスできるアンケートの回答がステージ上で紹介され、参加者一人一人の意見が共有される仕組みはとても新鮮だった。仲間の回答が紹介されるたびに会場が大いに盛り上がり、一体感が忘れ難いものとなった。

午後は脱炭素フォーラムに参加。登壇者は俳優でモデルの篠田麻里子氏、愛知工業大学の羽田裕教授。身近な生活習慣や選択が未来の地球環境につながっていくという言葉に、多くの参加者が耳を傾けていた。専門的な知識と分かりやすい表現が組み合わさり、環境問題が遠いテーマではなく、自ら取り組める行動だと実感できた。

屋外には展示や体験コーナーも充実していた。学生による地域の魅力紹介ブースでは、熱意ある説明に引き込まれ、公衆電話の魅力を紹介するユニークな展示も印象に残った。屋外ではご当地キャラクター(秋葉原の)「ちいたん☆」が全力で動き回り、炎天下でも多くの人を笑顔にしていた。

会場の動線は分かりやすく、各所にスタッフが立ち、来場者が迷うことなく移動できる工夫があった。ロビーや掲示も整っており、初めて訪れる人でも安心して過ごせる空間だった。受付から各会場までの移動もスムーズで、プログラムの切り替えも快適に行えた。

他の青年会議所の仲間とも多く再会し、互いの近況を語り合う時間は大変有意義だった。過去の活動を共にした仲間と再び会い、今も続くつながりの強さをあらためて感じられたことは、大きな喜びの一つとなった。東海コンファレンス 2025 は、学びと交流の両面で多くの気づきと出会いをもたらしてくれた。準備や運営に尽力された方々への感謝を胸に、今後の活動でもこの経験を大切にしていきたい。

